

埼玉大学記者会見発表者

1. 第4期中期目標期間の取組について

学長

さかい たかふみ
坂井 貴文

2. 戦略研究センターの設置について

理事(研究・産学官連携担当)・副学長

しげはら たかおみ
重原 孝臣

3. 令和3年度 学生支援・学生生活・就学状況

理事(教学・学生担当)・副学長

やなぎさわ てつ や
柳澤 哲哉

4. 令和4年度の授業について

理事(教学・学生担当)・副学長

やなぎさわ てつ や
柳澤 哲哉

5. 令和3年度コロナ禍における本学の対応と今後について

副学長(大学改革、防災・危機管理担当)

きざき かずみ
木崎 一美

6. 性暴力防止パンフレットの発行について

副学長(ダイバーシティ推進・キャンパス環境改善担当)

たしろ みえこ
田代 美江子

7. We are Saitama! ～埼玉と女子サッカー～

副学長(ダイバーシティ推進・キャンパス環境改善担当)

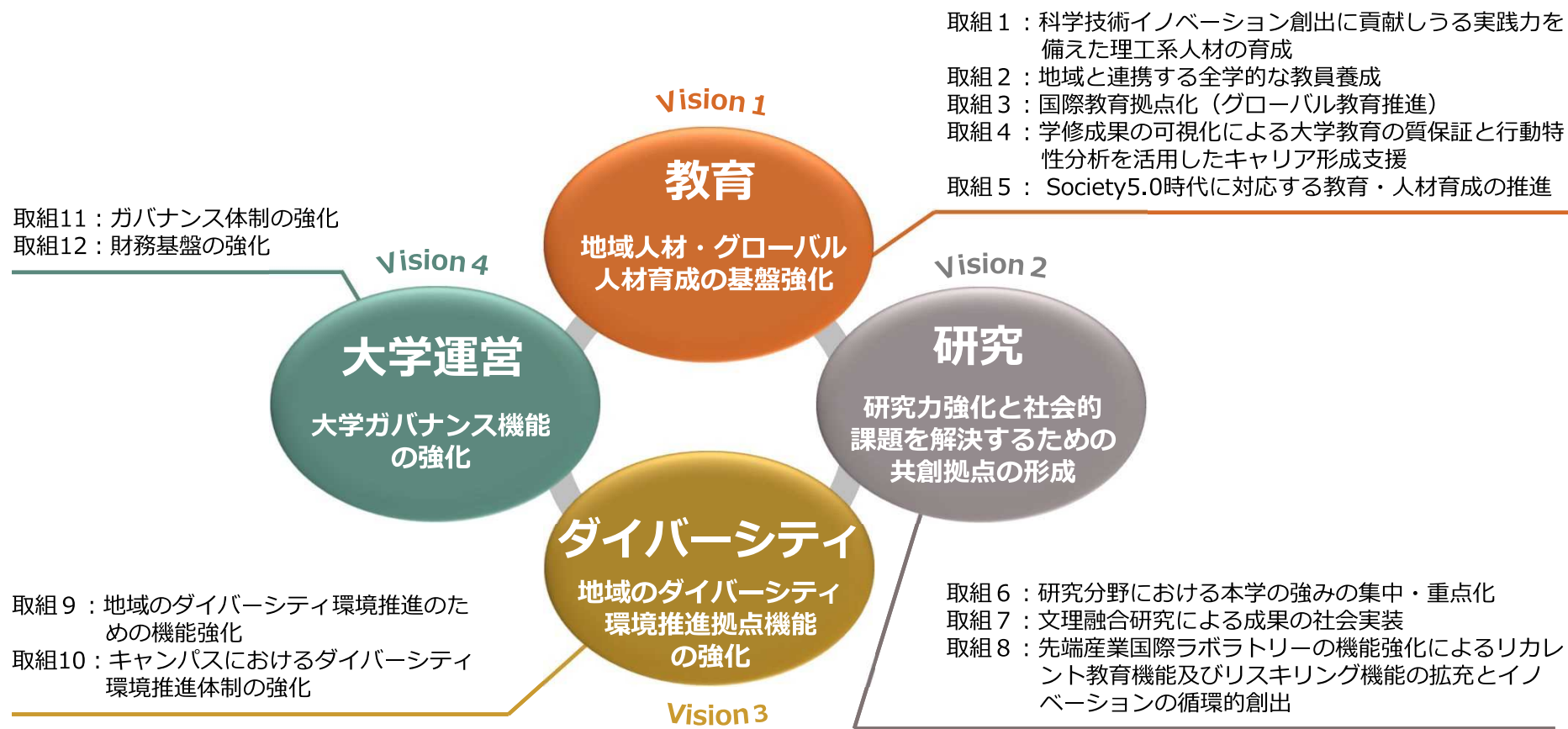
たしろ みえこ
田代 美江子

8. 教員の研究活動紹介

「未来光イノベーション ～光で不可能を可能にする～」

大学院理工学研究科 准教授

しおだ たつとし
塩田 達俊



埼玉大学 All in One Campus で多様な個性を活かし、知とステークホルダーをつなぐ、
 Connected Campusとして地域・世界と新たな価値を創造

Vision 1 : 地域人材・グローバル人材育成の基盤強化 ①

「Society5.0」、「SDGs」等の新たな社会課題や激しく変化する国際社会に対応しうる人材と地域ニーズに即した質の高い教員を養成します。

取組 1

科学技術イノベーション創出に貢献しうる実践力を備えた理工系人材の育成

理学部、工学部共に質の高いシームレスな6年一貫型教育による科学技術イノベーション創出に貢献しうる実践力を備えた理工系人材を育成します。

- 大学院理工学研究科（博士前期課程）の改組【令和4年4月】

取組 2

地域と連携する全学的な教員養成

教育学部、大学院教育学研究科、附属学校園、他学部等が一丸となった教員養成の質保証の更なる充実、大学と地域の協働による高度な教員養成を実現します。

- 全学的な教職支援体制の強化（教員養成支援センターの新設、FD、自己点検の実施）
- 地域の学校教員の教育力の向上（地域の教育界へ実践的な情報・技能の提供、埼玉県総合教育センターとさいたま市教育センターとの共同研究、大学教育実践フォーラム等の開催）

取組 3

国際教育拠点化（グローバル教育推進）

日本人学生の派遣及び外国人留学生の受入施策の充実を図るとともに、異文化を理解し国際感覚を持った人材を育成する国際教育拠点を形成します。

- 学生の海外派遣の拡大（海外協定校への派遣留学プログラムの拡充）
- 外国人留学生の教育プログラムの強化（大学院人文社会科学研究科博士前期課程の外国人留学生の教育プログラムの強化）
- ICTを活用した国際共修機会の拡充（オンライン授業の相互提供、卒業生・修了生ネットワークの充実等）

◆ 現行 6専攻 13コース【学生定員408名】

専攻	定員
生命科学系専攻 分子生物学コース 生体制御学コース	55
物理機能系専攻 物理学コース 機能材料工学コース	59
化学系専攻 基礎化学コース 応用化学コース	65
数理電子情報系専攻 数学コース 電気電子システム工学コース 情報システム工学コース	108
機械科学系専攻 機械工学コース メカノロボット工学コース	59
環境システム工学系専攻 環境社会基盤国際コース 環境制御システムコース	62

◆ 改組後 5専攻 10教育プログラム【学生定員436名】（ ）内は内数

専攻（6年一貫）	定員	(A)	(B)	(C)
生命科学専攻 分子生物学PG 生体制御学PG	55 (27) (28)	○	◎	◎
物質科学専攻 物理学PG 基礎化学PG 応用化学PG	114 (25) (32) (57)	○	◎	◎
数理電子情報専攻 数学PG 電気電子物理工学PG 情報工学PG	142 (20) (70) (52)	○	◎	◎
機械科学専攻 機械科学PG	70	◎	◎	○
環境社会基盤専攻 環境社会基盤国際PG	55	◎	◎	○
融合教育PG	定員	(A)	(B)	(C)
地球環境における科学技術の応用と融合	(10)	○	◎	◎
+				
特別教育プログラム（副PG）	定員			
(A) 6年一貫型イノベーション人材育成PG	(80)			
(B) データサイエンティストとしての素養を備えた理工系人材育成PG	(40)			
(C) 6年一貫型ハイグレード理数教育PG	(20)			

【大学院理工学研究科（博士前期課程）改組の特徴】

- 入学定員436人（28人増員）
- 現行の博士前期課程6専攻13コースを5専攻10教育プログラムに再編
- SDGs達成に貢献できる人材の育成を目指した専攻共通の融合プログラムの導入
- 時代の要請に応える3つの特別教育プログラム（副プログラム）の導入

取組 4

学修成果の可視化による大学教育の質保証と行動特性分析を活用したキャリア形成支援

Society5.0等の将来の社会変化を見据えた学修者本位の教育の実現に向けた教学マネジメントを確立するとともに、地域社会と一体となった Society5.0時代に必要とされる地域ニーズに合致した人材を育成します。

- 教学マネジメントの強化 (e-ポートフォリオシステムの導入、行動特性分析テスト(VSAT)の全学展開)
- 地域社会との教育としての窓口機能強化 (キャリアセンターの設置)

取組 5

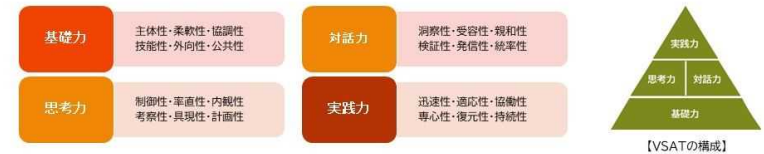
Society5.0時代に対応する教育・人材育成の推進

多様化する社会において必要とされる現代的ニーズに合致した高度な人材を育成するとともに、教育の質的高度化を実現します。

- ICTを活用した学修機会の充実 (デジタル技術を活用した授業手法を積極的な導入)
- 数理データサイエンス・AIのリテラシー教育の構築 (高度な数理データサイエンスを学ぶ科目の開講)
- アクティブ・ラーニング科目の充実 (基盤科目としてAL (アクティブ・ラーニング) 科目の拡充)

VSATで測れる4つの力

様々な体験を通して成長し、将来、社会で活躍するために必要とされる行動を、4つの力・24種類の特性で表しています。



人の成長を支える基本となるもの(基礎力)が根底にあり、どうやって論理的な思考(思考力)を身につけて物事を広い視野で捉えられるようになるか、また、他者を理解し、的確に情報のやりとり(対話力)ができるようになるか。それらの力を結集し、論理的な企画や解決する行動に活かしていく(実践力)のかを学生と社会人との共通言語として考えていく構成となっています。



このサイクルは卒業後、社会に出てからも、その時々キャリアで続いていき、自分だけのキャリアが作られていきます。



デジタル技術を活用した授業手法の積極的な導入 (オンデマンド型授業、オンラインと対面の授業の長所を組み合わせさせた授業等)

■ Vision 2 : 研究力強化と社会的課題を解決するための共創拠点の形成

新たな知の発見・創出を目指した強み・特色を有する分野の研究の推進とキャンパスの共創拠点化等の推進によるイノベーションを創出します。

取組 6 研究分野における本学の強みの集中・重点化

本学の強み・特色を有する研究分野の研究力を強化し、世界水準の卓越した研究を推進するとともに、国際的学術成果の創出、研究成果の社会還元・社会実装を実現します。

- 戦略的研究領域の再編・拡充（戦略的研究領域の指定、戦略研究センターの設置）
- 全学的な研究戦略マネジメントの強化（全学戦略的研究推進委員会の設置）

取組 7 文理融合研究による成果の社会実装

人文学・社会科学・自然科学の分野を超えた目的指向型研究から得られる知見を活かし、地球規模の課題や地域社会の多様なステークホルダーが抱える課題の解決に貢献します。

- 文理融合研究を推進する拠点の形成（社会変革研究センター（仮称）の設置）

取組 8 先端産業国際ラボラトリーの機能強化によるリカレント教育機能及びリスキリング機能の拡充とイノベーションの循環的創出

Society 5.0 時代に相応しい社会人技術者・研究者を養成するとともに、地域社会の多様なステークホルダーが抱える個別課題、地域課題、社会的課題の解決に貢献します。

- 共創型ワークショップ・スペースによるリカレント教育機能とリスキリング機能の拡充（地域の技術者等に対する実践セミナーの活動の強化）
- 先端産業インキュベーション・スペースの拡充
- 地域における産業の基盤技術力や研究開発力の強化



■ Vision 3 : 地域のダイバーシティ環境推進拠点機能の強化

埼玉大学がハブとなり、埼玉県内の大学・行政・NPO等の共同による地域社会のダイバーシティ環境推進をリードします。

取組9 地域のダイバーシティ環境推進のための機能強化

地域のジェンダーやダイバーシティに関わる問題の解決に貢献するため、埼玉県内の中核拠点として地域のダイバーシティ推進を牽引します。

- 彩の国女性研究者ネットワークの拡充
- ダイバーシティ教育支援・研究支援の推進（ダイバーシティ課題解決教育プログラムの構築、ダイバーシティに資する学内および産学官による文理融合研究、共同研究の推進・支援）

取組10 キャンパスにおけるダイバーシティ環境推進体制の強化

多様な学生と教職員が集うキャンパスのダイバーシティ環境を推進するとともに、新たな価値を創造しうる教職員の「多様な働き方」を実現します。

- 多様な学生に配慮した支援体制の構築（相談窓口の担当者連絡会議の設置）
- 教職員の就労環境の整備と支援体制の強化（ライフイベント支援やキャリアアップ支援、研究支援等の制度の拡充）
- 教職員の新たな働き方の確立（教職員のオンライン業務と在宅勤務の拡充、ICT環境の整備）



「ファミサポ@埼玉大学」による育児援助

Vision 4 : 大学ガバナンス機能の強化

経営環境の変化に応じた、多様なステークホルダーとのエンゲージメントによる自律的・戦略的な経営を実現します。

取組11 ガバナンス体制の強化

多様な人材・ステークホルダーとの活発な協働による経営基盤を強化するとともに、自律的・戦略的に大学をマネジメントできる体制を確立します。

- ステークホルダーとのエンゲージメントの構築（経営協議会における積極的な意見交換の促進、情報発信および広報活動の強化）
- 内部統制機能の実質化（内部統制システムの継続的なモニタリングの実施）
- 自己点検・評価及び外部評価による自律的な改善
- エビデンスに基づく学内予算の再配分



埼玉大学基金による留学生・日本人学生混住型のインターナショナルレジデンス（国際学生寮）の完成

取組12 財務基盤の強化

本学の多様な人材や土地・建物などの学内資源の最大限の活用と多様な財源の確保による財務基盤の強化を図ります。

- 保有資産の検証・有効活用（土地・建物の新たな活用の在り方などの調査・検証）
- 附金、外部資金等の獲得に向けた支援体制の強化（基金の積極的な募集等による寄附金の獲得推進、URA オフィスの機能強化や学内の競争的研究サポート経費配分の最適化・拡充等による外部資金の獲得推進

コロナ禍でがんばる埼玉大生を100円食堂で応援してください。



本学では、新型コロナウイルス感染症が拡大し、特に「無職支援基金」の募集が「開校100周年」の特別な大学の支援を要している状況にあります。この状況下で、学生生活を支えるための学内資源の活用、事業を通じて学生生活を応援している状況にあります。また、授業の実態を踏まえた多様なメニューに切り替えたこと、サークル活動の再開、授業の再開に向けた中止又は再開の受け入れにより、学生生活が徐々に回復しています。

本日は、本学が初めてクラウドファンディングを活用し、コロナ禍でがんばる学生を応援する100円食堂を実施しました。本学のクラウドファンディングは、学生生活の充実を図るための学内資源の活用を推進し、本学独自の価値観を共有し、結果として約1,000名分（約100万円）を目標に、皆様へご寄付を募りたいと考えています。

本学の学生生活の向上に貢献するご協力をお願いいたします。また、ぜひ本プロジェクトについて情報のシェア・拡散にご協力いただけますよう、何卒よろしくお願いいたします。

国立大学法人 埼玉大学長 板井貴文

● 目標金額: 530万円
 ● 募集方式: 寄附金経理型
 ● 募集期間: 2021年10月29日(金) ~ 12月24日(金)
 ● 寄附方法: インターネットによるお申し込み(専用サイト) <https://www.crowdfunder.jp/projects/ustanet20211029/>



【お問い合わせ先】埼玉大学経済学系庶務課 庶務 担当: tsudaiaisuupport@gr.ust.ac.jp 048-650-9042



クラウドファンディングを活用した「コロナ禍フード支援プロジェクト」の実施

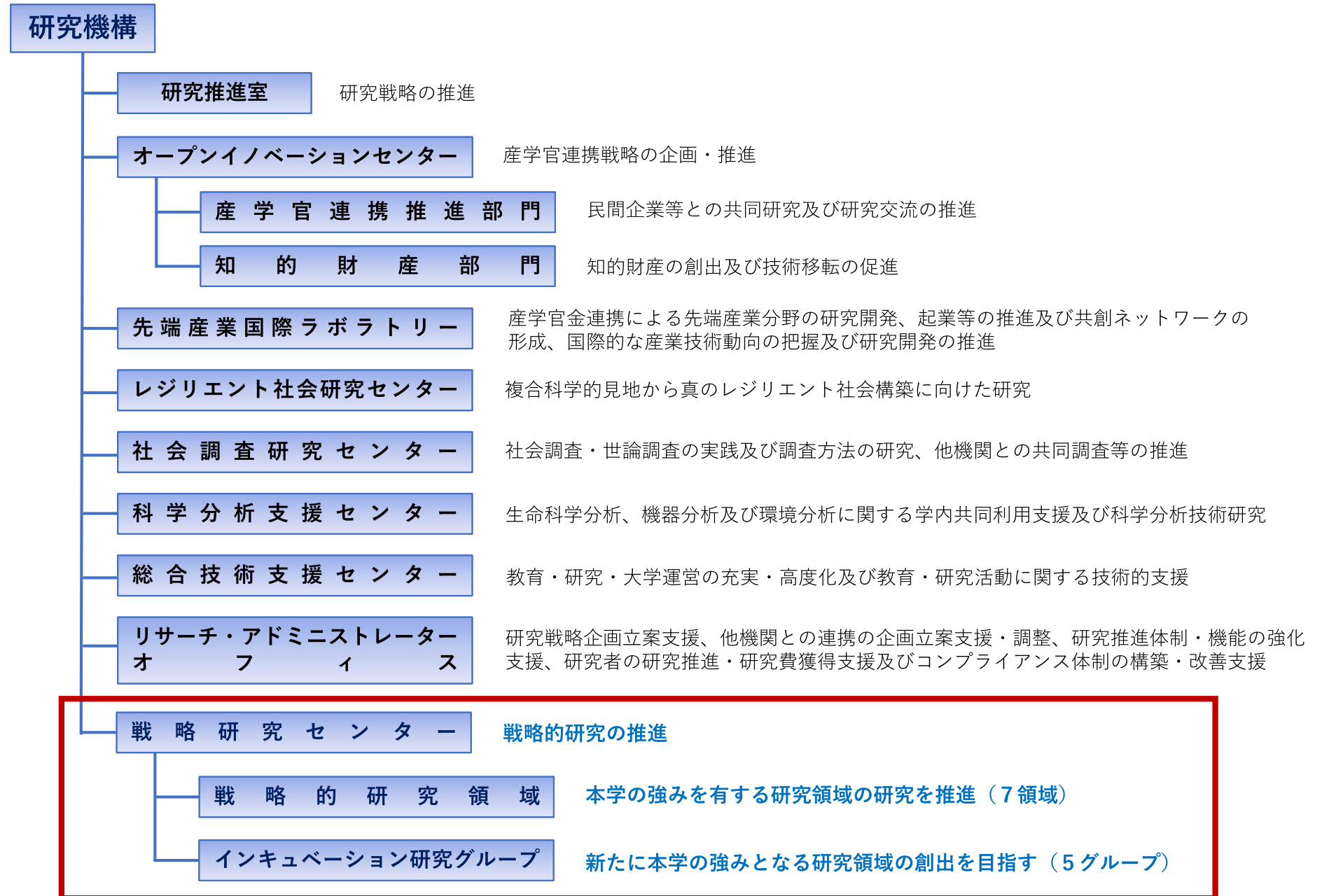
- 募集期間 令和3年10月18日～12月24日
- 寄附者 367人
- 寄附金額 591万円
- 実績 学生食堂で8,807食を提供しました。(令和3年10月18日～令和4年2月8日)

埼玉大学 研究機構 戦略研究センターの設置について

研究・産学官連携担当 理事・副学長

重原 孝臣

- 戦略研究センターは、国立大学法人埼玉大学における戦略的研究を推進し、その成果を学術・科学技術・社会等へ波及することを目的とする。
- センターに本学の強みを有する研究領域の研究を推進する「戦略的研究領域」及び新たに本学の強みとなる研究領域の創出を目指す「インキュベーション研究グループ」を置く。



■ 戦略的研究領域（本学の強みを有する研究領域を発展）

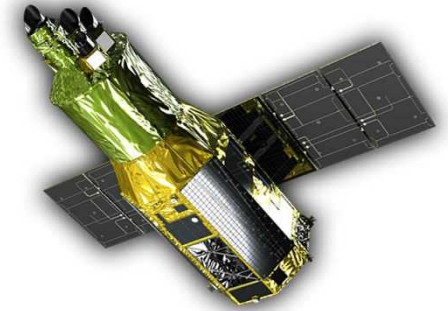
X線・光赤外線宇宙物理研究領域	観測波長や時間、国を超えて宇宙物理を推進します
グリーンバイオサイエンス研究領域	グリーンバイオ資源の高付加価値化と環境保全
健康科学研究領域	人に寄り添う技術で生活に活力を
循環型ゼロエミッション社会形成研究領域	循環経済移行及びゼロエミッション社会形成に不可欠となる産業廃棄物の有効活用技術開発・研究
進化分子デザイン研究領域	埼玉大学が誇る進化分子工学およびバイオイメージングの両研究領域の融合により、最先端の分子進化デザイン技術を確立し、基礎研究と応用研究で世界をリードする
東アジアSD研究領域	文理融合の見地から東アジアの持続的発展を研究
未来光イノベーション研究領域	光で不可能を可能にする

■ インキュベーション研究グループ（新たに本学の強みとなる研究領域の創出）

持続可能な材料の実現研究グループ	材料のゆりかごから墓場まで
重原子利用研究グループ	重原子の可能性を追求し世界を変える鍵分子を創成する
生体分子動力学研究グループ	動的観測と分子動力学の融合 ~生きた生体分子の動きをとらえる~
調和解析研究グループ	調和解析研究ハブの構築
日本語学・日本語教育研究グループ	多様な社会を支える日本語学と日本語教育研究を目指して

X線・光赤外線宇宙物理研究領域

観測波長や時間、国を超えて宇宙物理を推進します



X線分光撮像衛星XRISM
(2023年打上予定) ©JAXA

XRISM国際交流拠点



SaCRA : 埼玉大学55cm望遠鏡



計画A : X線宇宙物理研究拠点構築

- JSPS拠点形成事業「XRISM国際交流拠点」主幹
- XRISMのデータ解析を通じた若手研究者の派遣・受入
- XRISM国際シンポジウムの主催

宇宙X線観測の
人の交流の拠点
の形成形成

計画B : 光・赤外線を中心とした多波長観測の推進

- OISTERによる大学間連携光・赤外観測
- 埼玉大-宇宙科学研究所連携による科学運用の構築

波長横断データ
解析プラットフォーム
開発

計画C : 波長と時間を俯瞰した観測手法の発信

- 多波長データベースを縦横無尽に活用
- 次世代にむけた観測的研究手法の開発と発信

2030年代にむけた、
宇宙と地球の
観測的研究の推進

グリーンバイオサイエンス研究領域

Division of Green Bioscience

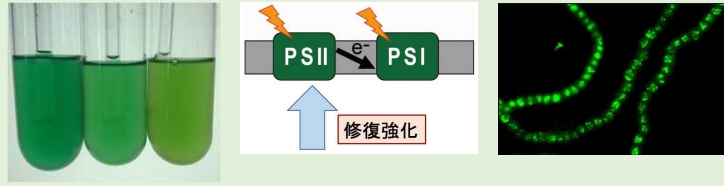
埼玉大学の強みである植物科学と環境科学をさらに発展させ次世代技術を開発する

植物の環境適応・耐性機構の解明



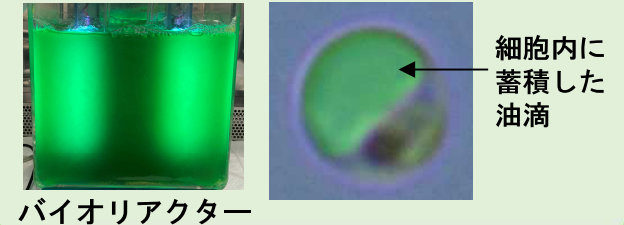
気候変動対策

光合成システムの理解と機能強化



光合成強化

微細藻類によるバイオ燃料生産

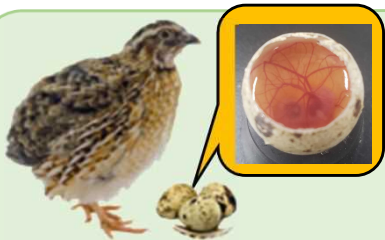


バイオリアクター

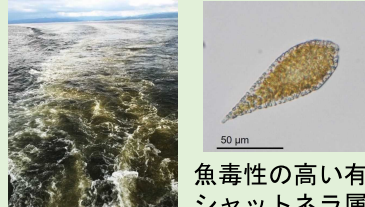
グリーンエネルギー創出

グリーンバイオ資源の高付加価値化と環境保全

環境保全

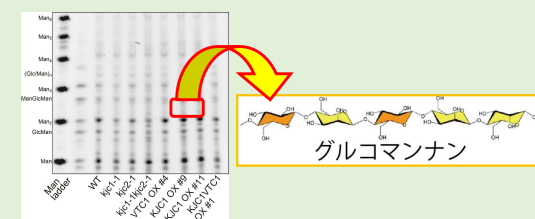


化学物質の毒性評価法の開発

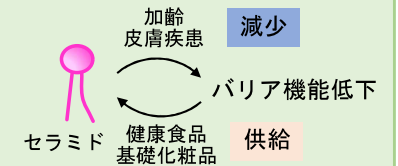


魚毒性の高い有害赤潮藻
シャットネラ属
赤潮被害軽減による
海洋資源の保全

医薬・健康増進



多糖プロバイオティクス



セラミド医薬品の開発

領域の方向性

カーボンニュートラル社会の実現とSDGsの達成を推進

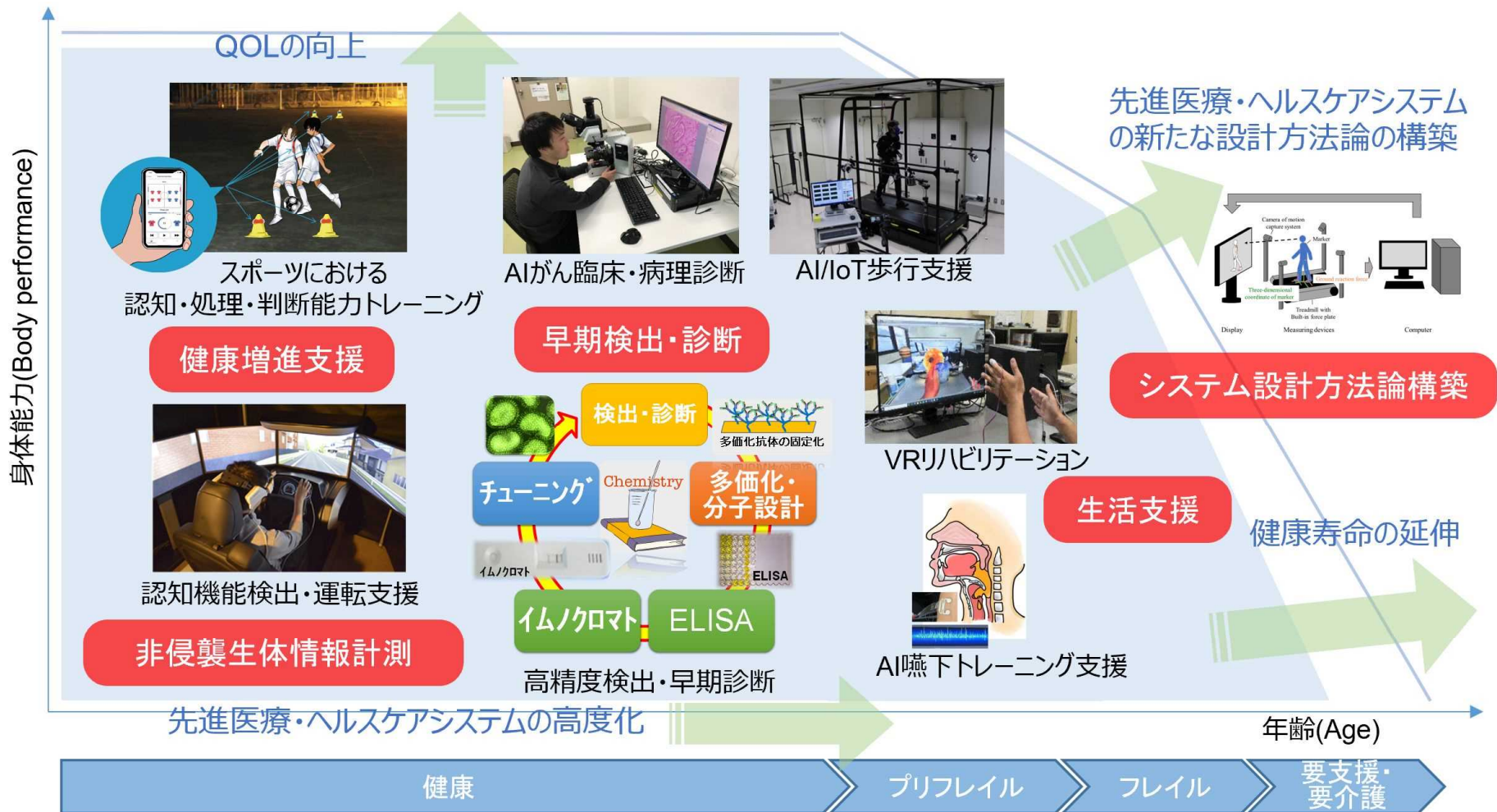
- 環境負荷を抑えたカーボンニュートラル技術の社会実装
- 医科学分野へのグリーン資源活用による国民の健康増進への貢献
- SDGsの達成を担う人材の養成と国際連携

健康科学研究領域

人に寄り添う技術で生活に活力を

Empower better lives with assistive technology innovation

健康科学研究領域においては、健康寿命の延伸や新たな生活様式への対応を念頭に、健康科学、早期診断技術、感性認知工学、人間支援工学の研究成果の応用領域への展開を目指して、サイバー空間とフィジカル空間の融合による新たな価値の創出により、先進医療やヘルスケア分野における先進的な研究開発を行い、社会的課題や地域課題の解決に貢献するとともに、当該分野の研究開発を行える実践的な人材育成を行い、当該分野の発展に貢献することを目標とする。DX、AI、IoT、VR、HMI技術の健康科学分野への応用、IoT技術を用いた非侵襲生体情報計測技術、AI技術を用いたがん臨床検査・病理診断技術、人に寄り添った生活支援・リハビリテーション技術、糖鎖や抗体などの多価化による活性向上技術およびウイルスマーカーへの応用、蛍光検出試薬の検出感度向上技術などの研究を行い、先進医療・ヘルスケアシステムの新たな設計方法論の構築およびシステムの高度化に関する研究開発を推進する。



健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されことなく生活できる期間）の延伸およびQOL（生活の質）の向上

循環型ゼロエミッション社会形成研究領域

循環経済移行及びゼロエミッション社会形成に不可欠となる産業廃棄物の有効活用技術開発・研究



1. 領域メンバー：川本 健（領域長）

（埼玉大学参加研究科）

理工学研究科・人文社会科学研究科

（連携・協力を図る機関）

埼玉県、さいたま市、国立環境研究所、関連民間企業、関連学協会、他

2. 研究領域の目的

国際社会において解決すべき廃棄物問題の中でも、産業廃棄物の適正管理・処理・リサイクルに焦点を当て、**循環経済移行及びゼロエミッション社会形成に不可欠となる産業廃棄物の有効活用技術開発・研究**を、多国間における連携と共通認識を基軸に、国内外の強固な産学官連携ネットワークに基づき推進することを目的とする。

連携国：ベトナム、タイ、スリランカ、パキスタン、デンマーク、ブルガリア、米国、コスタリカ、他

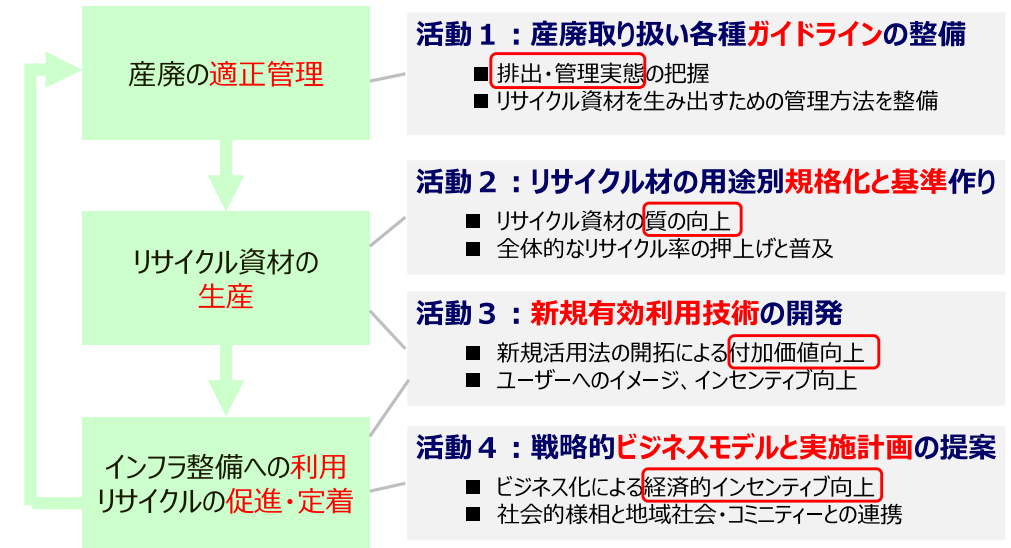
3. 研究計画（R4～R8年度）

循環経済移行及びゼロエミッション社会形成に資する国際共同研究・プロジェクトを推進し、**産業界廃棄物問題解決を目指した分野横断型学術研究領域**を形成する。また、将来の当該学術研究領域を担う**国内外の優秀な若手人材育成**（若手教員、ポスドク研究員、博士後期学生）を促進するとともに、各プロジェクトの海外現場での実践・理解を通して本学学生（学部・博士前期学生）の**国際性涵養（実参実究）**を推進する。

（具体的な研究事業・目標）

- ① 学術的成果：論文数35編以上
- ② 外部資金による国際プロジェクト・連携の推進：国際援助支援機関（JICA、UNDP、WB等）による産学官連携国際プロジェクト、他
- ③ 特許・実用新案：国際特許2件以上
- ④ 人材育成：博士号10名以上、修士号20名以上、海外インターンシップ50名以上

研究構想



本研究領域の重点対象となる産業由来細粒材の事例



石炭火力発電所付近の石灰（ベトナム）



放置されているリン鉱石残渣（ベトナム）



放置されている鉄鋼スラグ残渣（ベトナム）



未処理のまま投棄されるし尿（スリランカ）



生活排水路に流出した汚泥（ベトナム）

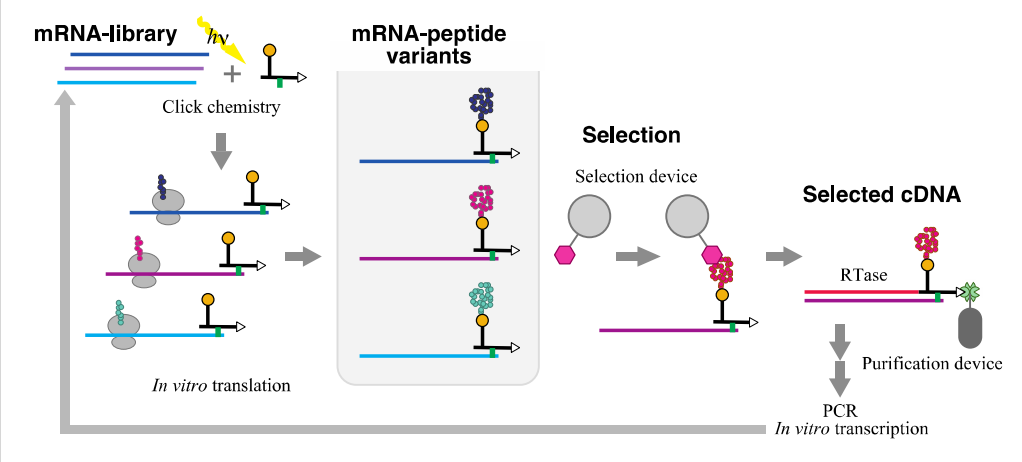
進化分子デザイン研究領域 Evolutionary Molecular Design

埼玉大学が誇る進化分子工学およびバイオイメージングの両研究領域の融合により、最先端の分子進化デザイン技術確立し、基礎研究と応用研究で世界をリードする。

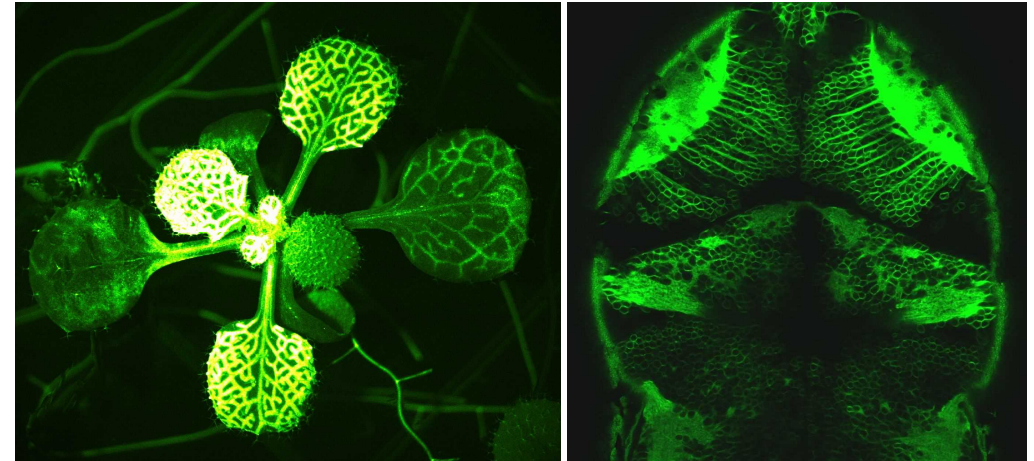
理論から応用まで世界をリード
してきた進化分子工学技術



世界を驚かせた斬新な
バイオイメージング技術



試験管内ペプチド・タンパク質の高速分子進化技術



蛍光タンパク質センサーを利用した生体内物質の可視化

左、シロイヌナズナのカルシウムセンサー
右、ゼブラフィッシュ脳の膜電位センサー

発展の方向性と推進する課題

生命科学の多岐に渡る応用分野への展開促進

- 人工抗体の生体機能制御への応用
- 触媒酵素の試験管内進化技術
- 膜タンパク質の機能制御技術の開発
- 新たな分子淘汰（スクリーニング）の技術開発

イメージング用の新たなセンサータンパク質の開発

- 新規センサータンパク質の分子デザイン
- 電気生理学など生物学的研究基盤の構築
- バイオセンサーに合わせた新たなイメージング技術開発

研究活動

試験管内翻訳技術を基盤とする進化分子工学の技術革新と応用領域へのフィットネスを加速

- ・ 技術革新の歩みを止めず常に最先端へ
- ・ 県内外企業との連携による産業活性化
- ・ 著名科学専門誌への成果発信

研究ネットワークを活かした学際研究の推進

- ・ 開かれた「知の交流・発信の場」を提供

メディアを活用したイメージング研究発信

- ・ 中高生の生命科学教育へ貢献
- ・ 世界から優秀な大学院生をリクルート

東アジアSD研究領域

—文理融合の見地から東アジアの持続的発展を研究—

[設置目的・目標]

- 東アジアの持続的発展（Sustainable Development）をテーマとして、人文社会科学系や理工系の枠を超えた研究を推進する拠点として2019年7月に設置。

[これまでの実績]

- ベトナムでの建設廃棄物管理に関するSATREPS（JST-JICA）プロジェクトに関するベトナム国立建設大学とのジョイントセミナー、ミャンマーヤンゴン経済大学等との経済・社会開発に関するワークショップ・共同研究等を通じて、研究成果の発信・社会還元を推進。

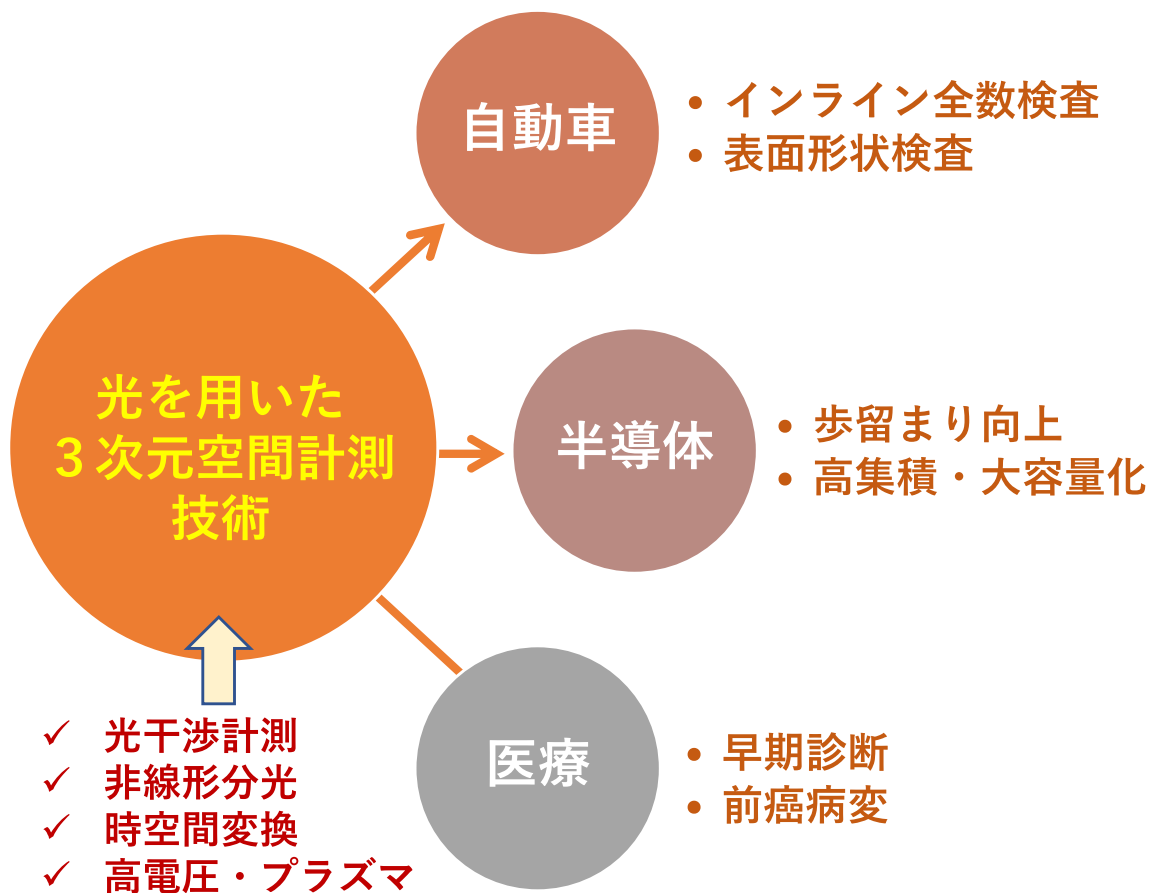
[今後の展開]

- 今後とも、環境・水資源プロジェクトの経済社会への影響分析（現地調査等）、経済社会開発のための現場に密着したケーススタディ等を通じて、政府・NGO等を巻き込んだ実用的な研究を推進。

未来光イノベーション研究領域

～光で不可能を可能にする～

未来光イノベーション研究領域が保有する技術と取り組む社会的課題



3	すべての人に健康と福祉を	7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	9	産業と技術革新の基盤をつくろう	12	つくる責任 つかう責任

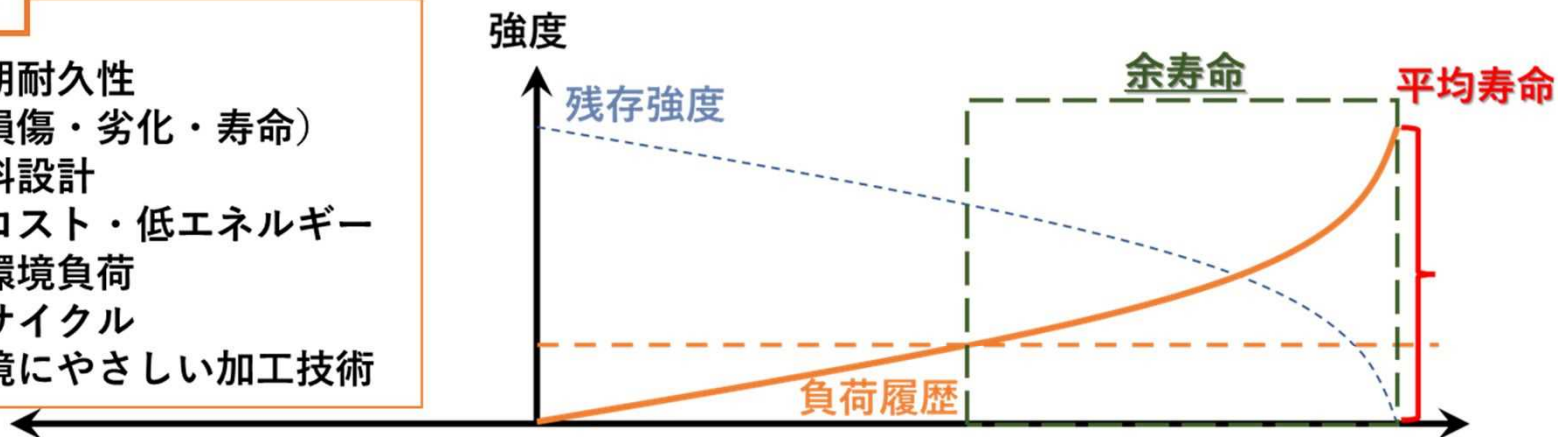
- 安全・安心社会
- 低炭素社会
- クリーンエネルギー
- 健康と福祉
- QOL向上

持続可能な材料の実現研究グループ –材料のゆりかごから墓場まで–

持続可能な材料を目指すために行うことを目的として、材料作製から使用中・使用後までを含め、金属・高分子材料・セラミック材料・複合材料すべての材料において以下の目的で研究を行う。

目的

- ・長期耐久性 (損傷・劣化・寿命)
- ・材料設計
- ・低コスト・低エネルギー
- ・低環境負荷
- ・リサイクル
- ・環境にやさしい加工技術



材料作製時

- ・分子レベルでの材料設計
- ・材料の効率的な作製法
- ・環境にやさしい加工技術

使用開始時

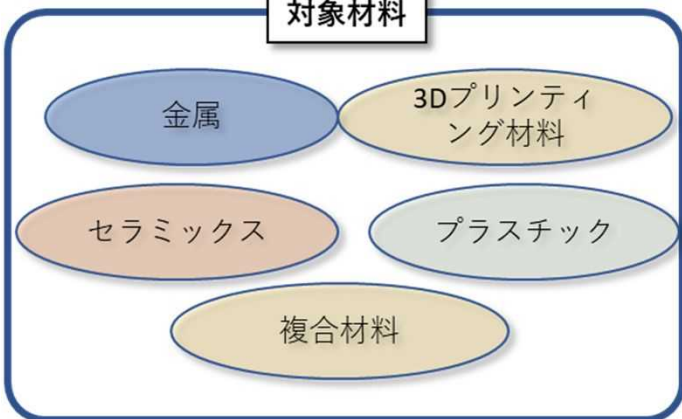
使用中

- ・余寿命評価
- ・使用中非接触測定

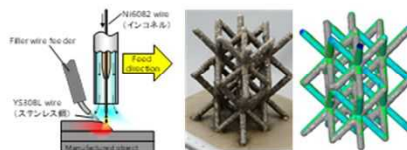
寿命・故障

- ・フラクトグラフィによる故障原因解明

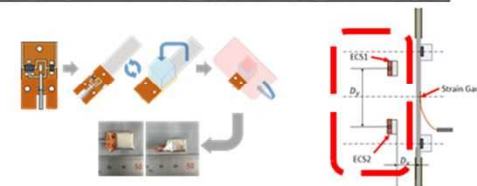
対象材料



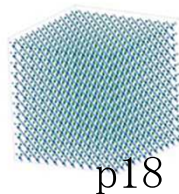
3Dプリンタによる材料創生技術開発



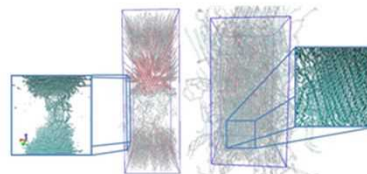
非接触による超音波測定法の開発



セラミック材料のMDによる機能性向上



高分子系MDによる耐久性発現機構の解明



重原子利用 研究グループ

重原子の可能性を追求し
世界を変える鍵分子を創成する

私たちは、重原子の特性を最大限活用することで、単純なフラスコでの反応では実現できない新反応を開拓します。反応場として生体分子を活用し、反応の起点となる鍵分子の創成を目指します。エネルギー問題の解決に直結する小分子（二酸化炭素、水素、窒素など）の活性化反応をターゲットとし、持続可能な社会の実現に貢献します。

重原子化学



齋藤 雅一 (統括)



中田 憲男



古川 俊輔

生体関連化学

物性物理



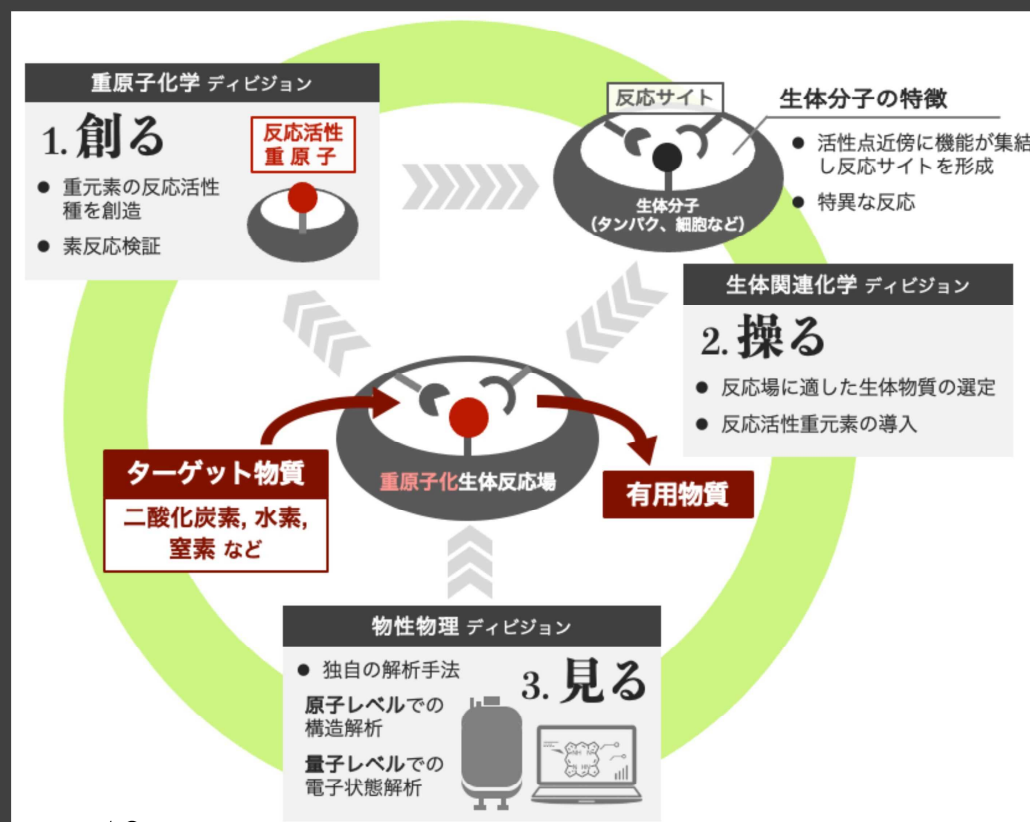
藤城 貴史



谷口 弘三



小林 拓矢



生体分子動力学研究グループ

動的観測と分子動力学の融合 ~生きた生体分子の動きをとらえる~

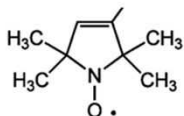
ダイナミクスと構造の動的観察

動力学計算

生体試料合成

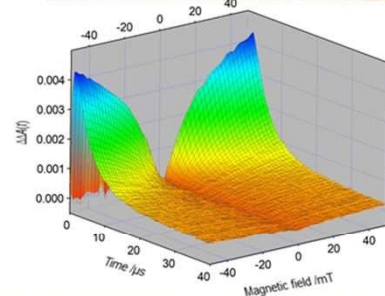
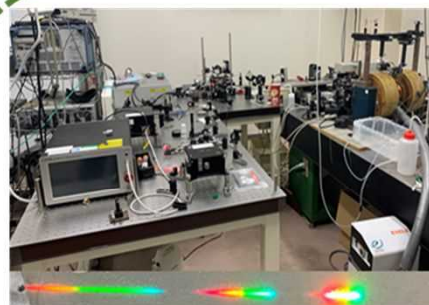
@オープンラボ 2

畠山 遺伝子操作

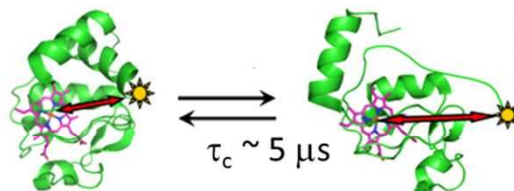


スピンラベル合成

@オープンラボ 1



電子スピン共鳴
中間状態の距離計測



超精密磁場, 電磁波効果
スピンドイナミクス観測

矢後, アンテル, 長嶋,
前田

蛍光相関・顕微鏡
1分子レベルの揺らぎの
ダイナミクス観測

乙須・アンテル

生体分子動力学の
基本原理の解明へ

N? S?



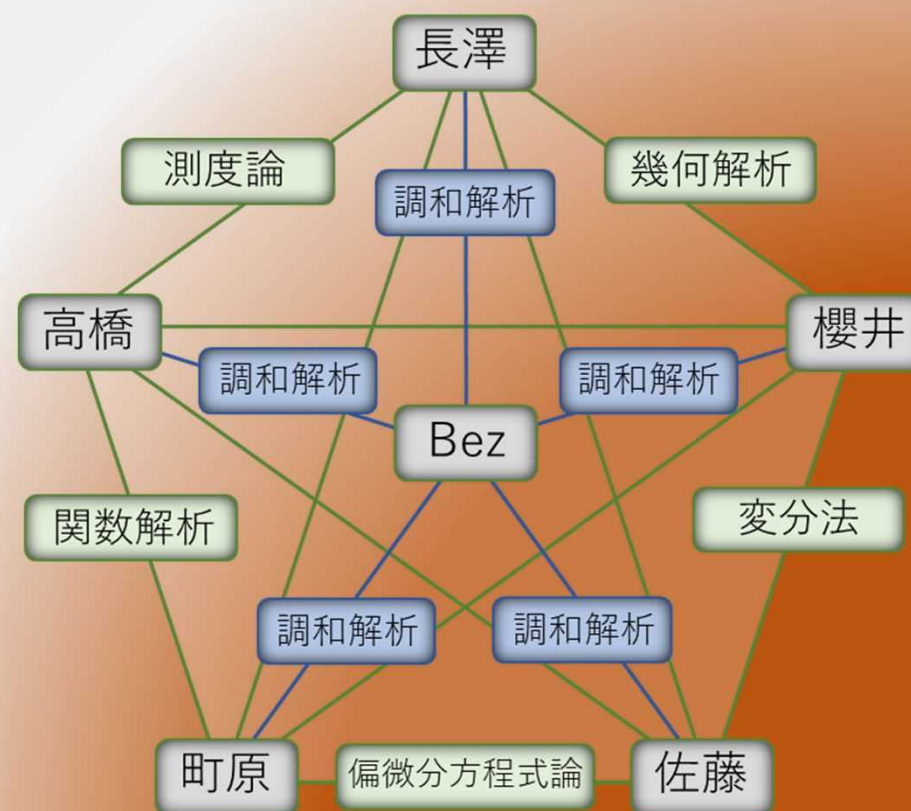
調和解析研究グループ

調和解析研究ハブの構築

物理学, 自然科学, 経済学など
実世界の現象を表す数学的モデルを研究する

E.g. なぜシャボン玉は丸くなるか?
準結晶では電子はどのようなエネルギー準位?
太鼓の音色から形が求められるか?

調和解析の手法に基づいて解析学の諸部門
(幾何解析・変分法・偏微分方程式論・
関数解析・測度論) の深淵部に迫る



日本語学・日本語教育研究グループ

～ 多様な社会を支える日本語学と日本語教育研究を目指して～

- (A) 学術面：国際的な学習・使用環境における日本語の諸問題を明らかにし、日本語の包括的な研究を行う。*keywords*: 現代日本語, 日本語史, 日本語教育, 国語教育, 対照分析, 語用論 *etc...*
- (B) 社会面：日本語学と日本語教育の相互補完（日本語学で得られた知見を日本語教育に応用, 日本語教育で得られた知見を日本語学に還元）を実現するプラットフォームとして, 中心的な役割を果たす。⇒ 国際化する地域社会への貢献

埼玉大学

国内の大学
(主に埼玉県内)

国内の日本語教育機関
(主に埼玉県内)

国外の大学

さいたま言語研究会

(2016年設立, 現在会員90名, <http://saitamagengoken.sakura.ne.jp/home/>)

- ① 研究大会の開催 (年1回 / 毎年12月初旬)
- ② 研究会誌『さいたま言語研究』の刊行 (年1回 / 毎年3月末)
- ③ 学生有志による勉強会の開催 (不定期 / 月に1~2回程度)
- ④ 埼玉県内の他大学等の研究者との協力体制の構築
- ⑤ 埼玉県内の日本語教育の現場 (専門学校や日本語学校) との学術的ネットワークの構築
- ⑥ 国外の大学との学術交流の定常化



Saitama University

資料3
埼玉大学記者会見
令和4年3月25日

令和3年度 学生生活・就学状況・学生支援

- コロナ禍学生アンケート より
期間 2021/12/01～12/10
対象 学部生・大学院生
調査目的 経済状態／通学困難者／ワクチン接種状況
- 中退・休学状況
- 食の支援「100円食堂」

アルバイトの状況

アルバイトの有無（全学年対象）

	回答数	回答率
アルバイトをしている	1119	68.32%
アルバイトをしていない	519	31.68%

コロナ禍以前のアルバイト収入との比較（主に3, 4年生対象）

	回答数	回答率 (767件中)	回答率 (その他を除く)
3割以下しか回復していない	88	11.47%	12.82%
5割程度回復している	138	17.99%	20.12%
8割以上回復している	117	15.25%	17.06%
コロナの影響はない	343	44.72%	50.00%
その他	81	10.56%	---
合計	767	100%	100%

コロナのアルバイト就業への影響（全学年対象）

コロナの影響でアルバイトできない	95名	5.80%
------------------	-----	-------

通学困難者

通学可能か通学困難か	回答数	回答率
通学可能である	1505	91.88%
通学困難である	133	8.12%

通学困難である理由を記載したもの

	回答数	回答率 (73件中)	回答率 (1638件中)
遠距離だから	29	39.72%	1.77%
感染の不安がある	19	26.03%	1.16%
本人に健康問題がある	1	1.37%	0.06%
同居家族に高齢者、基礎疾患患者	8	10.96%	0.49%
その他	16	21.92%	0.97%
合計	73	100%	4.46%

学生の修学状況（中退者・休学者）に関する調査【令和3年12月末時点】

- ◆ 調査対象：全国の国公私立大学（短期大学を含む）及び高等専門学校（回答率96.2%）
- ◆ 調査時点：令和3年12月末時点
- ◆ 調査趣旨：各大学等における中退者・休学者の状況について調査

1. 中退者の状況（4～12月の状況）

○中退者数の割合は、令和3年度は令和2年度に比べて、若干増加している。コロナを理由とした中退者数の割合についても若干増加しており、実人数では約1.4倍となっている。

大学 (大学院生 含む)	R3年度		R2年度		R元年度	
	4～8月	4～12月	4～8月	4～12月	4～8月	4～12月
中退者数	11,862人 (701人)	29,733人 (1,937人)	12,322人 (385人)	28,647人 (1,367人)	14,239人	36,016人
学生数に 占める中退 者数の割合	0.40% (0.02%)	0.99% (0.06%)	0.41% (0.01%)	0.97% (0.05%)	0.48%	1.22%

※R3年度(4～8月)、R2年度、R元年度の数値は過去の調査結果より引用
※表の括弧内は、そのうち新型コロナウイルス感染症の影響によるものと回答があった者の数/割合

○中退者のうちコロナを理由とした者の内訳としては、令和2年度と比べ、

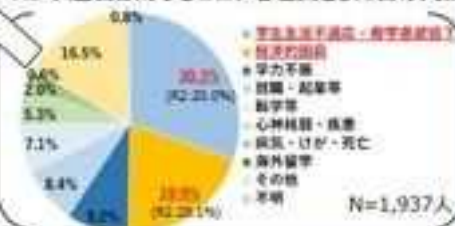
・学生生活不適合・修学意欲低下は増加
(+10.3ポイント(R2:20.0%))

・経済的困窮は減少
(-8.2ポイント(R2:28.1%))

R3中退者数の内訳（全体）



R3中退者数のうちコロナを理由とした者の内訳



2. 休学者の状況（12月末時点の状況）

○休学者数の割合は、令和3年度は令和2年度に比べて、やや減少している。コロナを理由とした休学者数の割合については若干増加しており、実人数では約1.3倍となっている。

大学 (大学院生 含む)	R3年度		R2年度		R元年度	
	8月末時点	12月末時点	8月末時点	12月末時点	8月末時点	12月末時点
休学者数	50,908人 (4,418人)	64,783人 (5,855人)	47,087人 (2,677人)	65,670人 (4,434人)	-	71,287人
学生数に 占める休学 者数の割合	1.70% (0.15%)	2.17% (0.20%)	1.57% (0.09%)	2.23% (0.15%)	-	2.42%

※R3年度(4～8月)、R2年度、R元年度の数値は過去の調査結果より引用
※表の括弧内は、そのうち新型コロナウイルス感染症の影響によるものと回答があった者の数/割合

○休学者のうちコロナを理由とした者の内訳としては、令和2年度と比べ、

・経済的困窮は増減なし
(±0.0ポイント(R2:15.0%))

・学生生活不適合・修学意欲低下はやや増加
(+1.0ポイント(R2:9.6%))

R3休学者数の内訳（全体）



R3休学者数のうちコロナを理由とした者の内訳



就学状況調査

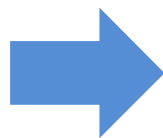
中退者数 4月～12月

	R3	R2	R1
学部生	25	26	84
大学院生	24	24	46

休学者数 12月末時点

	R3	R2	R1
学部生	170	141	185
大学院生	70	76	129

新型コロナに起因する
休学理由



留学延期による休学選択 3名
 コロナによる収入減 5名
 コロナによる就学計画見直し 1名

「100円食堂」

451円定食（100円学生＋351円寄付）

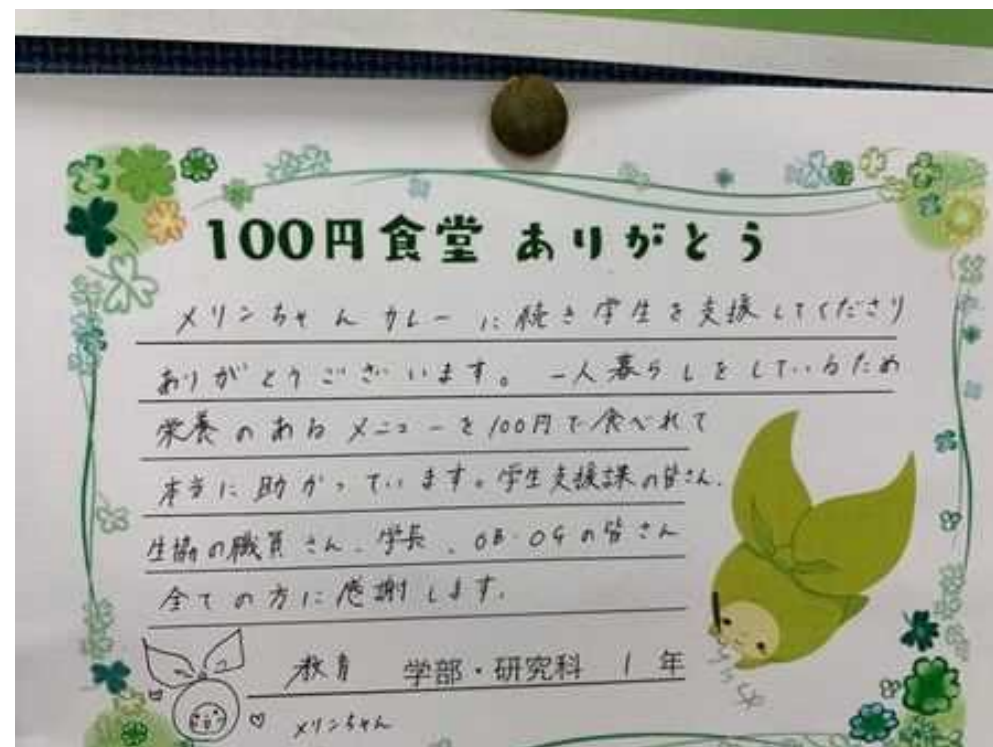
クラウドファンディングの活用

目標530万円

寄付金額591万円、寄付者367人

フードパントリー

レトルト食品の寄贈（12,000食）





Saitama University

資料 4
埼玉大学記者会見
令和4年3月25日

令和4年度の授業について

○授業形態

○「教養」科目の改革

「対面原則」で実施

感染防止対策を実施のうえ通常の対面授業

遠隔授業は特例として開講

基礎疾患・高齢同居家族を有する教員の授業
一部の非常勤の講義

通学困難な学生にはハイフレックス等に対応

感染拡大時には「ハイフレックス原則」

令和4年度から新しい「教養」教育

学部教育の構造

専門教育 + 「教養・スキル・リテラシー」教育

「教養・スキル・リテラシー」教育の改革

普遍的価値と現代的価値を学ぶ

ワンキャンパスの強みを活かす

「A L（アクティブ・ラーニング）科目」群

少人数

討論や共同作業 ← 学生同士の相互刺激

R.4年度36科目、R.5年度40科目

データサイエンス教育

TOEFLを軸とした英語教育